

公的扶助論

担当教員 河谷 はるみ、隈 直子

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

はじめに、低所得者層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について把握する。次に、相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護に係る他の法制度を説明できる。また、公的扶助をめぐる最近の動向と自立支援プログラムの意義やその実際について理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、公的扶助の概念（河谷・隈）
2	貧困・低所得者問題と社会的排除（河谷）
3	海外の公的扶助制度の歴史（隈）
4	日本の公的扶助制度の歴史（河谷）
5	生活保護制度の目的、原理、原則（河谷）
6	生活保護の種類と内容及び方法、保護施設（隈）
7	被保護者の権利及び義務、不服申立てと訴訟（隈）
8	最低生活保障水準と生活保護基準（隈）
9	生活保護の動向と予算・財源（河谷）
10	低所得者対策（住宅政策を含む）とホームレス対策の概要（河谷）
11	生活保護制度における組織及び団体の役割と実際（河谷）
12	福祉事務所と専門職の役割と実際（多職種連携、ネットワークとその実際を含む）（河谷）
13	貧困・低所得者に対する相談援助活動（生活保護制度に係る他の法制度の理解を含む）（隈）
14	生活保護における自立支援プログラムの意義と実際（河谷）
15	低所得者に対する支援の政策動向と課題（河谷・隈）

【履修上の注意事項】

- (1) 必ず、テキストを持参して受講すること。
- (2) 予習をして授業に臨み、授業後は、復習をすること。

【評価方法】

試験80% レポート20%

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『低所得者に対する支援と生活保護制度－公的扶助論【第3版】』（中央法規出版、2014年）

【参考文献】

講義の中で、適宜紹介する。